

業務連絡

1

第7週 アフリカ1： 植民地からの独立とその後

2

地誌学I ポスト911世界の新地政学



3

アフリカの問題(80年代以降)

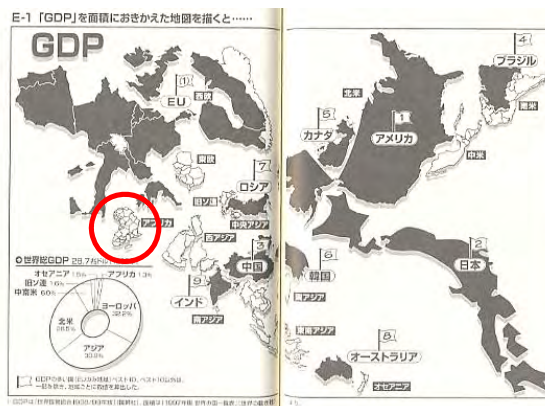
- 貧困問題と経済の長期的停滞
- 社会開発／人間開発の遅れ
- 食糧補償問題と農業の低生産性
- グローバリゼーションの中での周縁化
- 変わらぬ経済構造
- 高い援助依存と累積債務
- 紛争・平和構築
- 民主化プロセスの実態
- 脆弱な国家機構
- 高い人口増加率
- 環境悪化

4

アフリカの統計

- 経済(GDP)成長
 - 1970年代 年率14%、1980年代1.6%、1990年代2.6%
 - (1980～2001年 一人当り-0.6%)
 - 2000年から回復基調
 - 2005年以降 5%台にまで回復
 - 但し、アフリカが2000年から2015年までに貧困を半減させるには、年率7%のGDPの成長が必要。
- 限られた成長国(1999～2000年、南アフリカを除く)
 - モザンビーク、ウガンダ、コンゴ(共和国)、アンゴラ
- 近年の成長国＝石油輸出国、鉱産資源にも希望

5



○90年代までの貧困問題

- 49%のアフリカ人が貧困(1ドル/日以下)状態(1999年)
- 持続的経済成長が期待できる環境で暮らすアフリカ人は15%

○平均寿命(1996/97→2003)

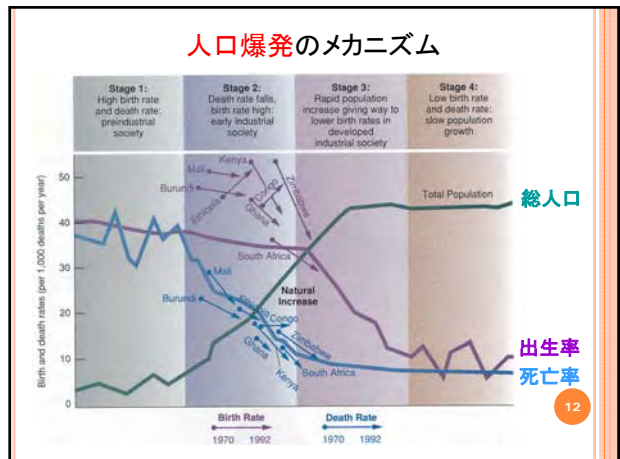
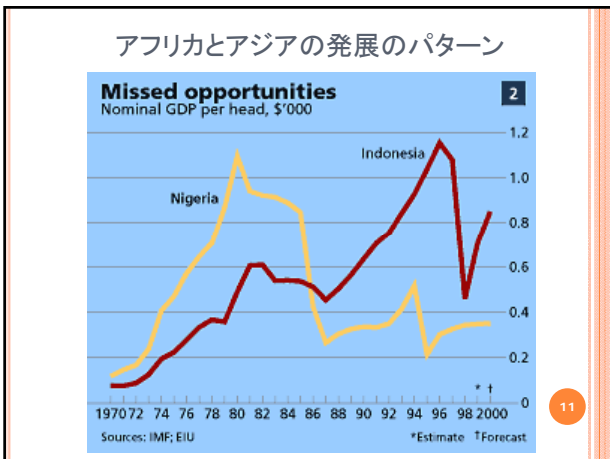
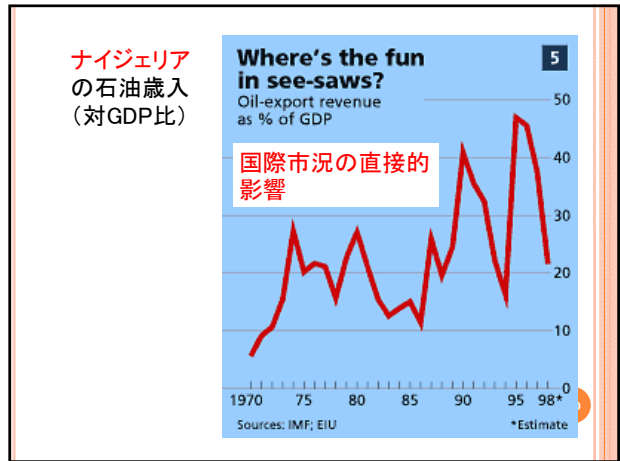
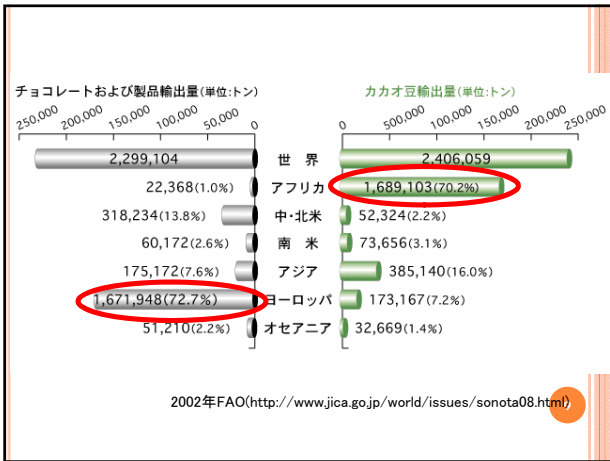
	男	女
シエラレオネ	33→39.4	36→42.1
マラウイ	36→39.8	36→39.6
ザンビア	37→37.9	38→36.9
スワジランド	38→32.1	41→32.9
日本	77→78.4	84→85.4

7

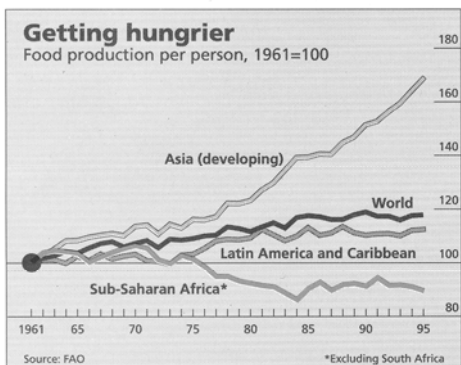
○モノカルチャー(資源依存)経済の継続

ナイジェリア 石油
 アンゴラ 石油
 ガンビア ピーナッツ
 ウガンダ コーヒー
 ザンビア 銅
 ケニア コーヒー
 ガーナ カカオ
 ガボン 石油
 エチオピア コーヒー

8



食糧生産性の変化



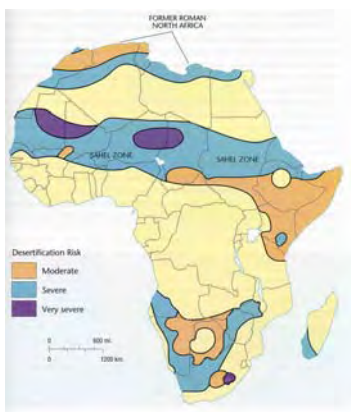
13

飢饉の犠牲者
(スーダン)



14

砂漠化の進行



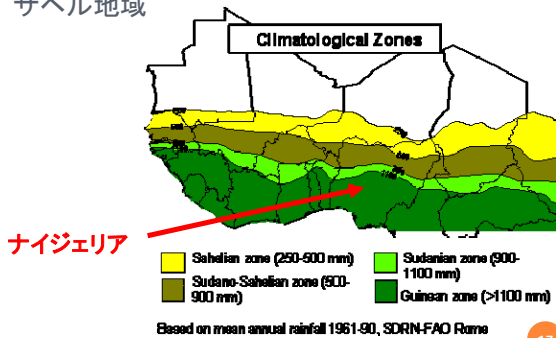
15

砂漠化とは

- 土地の生物潜在生産力が低下ないし破壊され、砂漠になる
- 牧場の生産力低下、乾燥農業が不可能に、灌漑地が塩水化によって放棄される→土地生産性低下
- 自然要因: 気候の乾燥化
- 人為要因: 放牧拡大による森林減少と土壌侵食→気候変動に対する弱体化
- 農村荒廃の要因に→人口流動惹起

16

サヘル地域



17

都市流入民によって形成された貧民街
(南アフリカ、ケープタウン)→環境難民



FIGURE 2.28 Shantytown, Cape Town, South Africa.

18

小麦のわな(WHEAT TRAP)

- サヘル地域で食糧生産が破綻するプロセス
- 4つの要因
- 1. 旧植民地主義の経済秩序
 - 資源を搾取し、先進国での加工のために輸出する
 - ← 土着農法(自給的)
 - 栽培作物を多様化(もろこし、きび、豆、牧畜の組み合わせなど) = 旱魃対応
- 2. 輸向け商品作物生産の導入(新独立国に外国の農業資本が入る)

19

- 3. 国家エリートの汚職と腐敗
 - 安易な輸出入政策
- 4. 商品作物生産へ転換する動機(最初は高く売れる)とプレッシャー(例:綿作奨励)
 - ↓
 - 国際市場価格が高いと
 - 国は輸出による歳入増を目指し、農家は商品作物販売による収入を食料の購入にあてる

20

- 作物転換(農牧業商品化)の結果
 - ・土地利用の集約化や灌漑の利用(塩分集積)
 - ・牧畜の増加(過剰放牧)
 - ・林草地の減少(風雨浸食の増加)
 - ・旱害に強い伝統的作物の多角的栽培の減少
 - ・牧畜用家畜も多角化から単一化
 - ・購入する食料の価格上昇により家畜売却

21

- 社会生活の変化
 - 農村での共同利用資源(共有地や水源)が減少、利潤追求のための商品化が進む
- 食生活の変化
 - 輸入される小麦で作られた白いパンを購入して食べる(ナイジェリアのマクドナルド)
- 貿易構造の変化
 - ・資源(ナイジェリア、石油)の輸出とアメリカや他国が安売りする食品(ナイジェリア、小麦)の輸入
 - ・地方農民は相対的に高く売れない自給食物(国産穀物)の生産から離脱

- 結果
 - 食糧の対外依存深化と砂漠化・旱魃・飢餓の悪化 = 小麦のわな: ナイジェリア

23

「打開策」としての構造調整(80年代～)

- 構造調整を要するマクロ経済的状況
 - ・第二次石油ショック(1979年)以降の世界不況
 - ・輸出用の農産物・鉱産物の国際価格下落
 - ・開発途上国の国際収支悪化と対外債務の累積
 - ・投資価値も下落
 - ・IMF(国際通貨基金)、世界銀行、先進国からの援助依存
 - ・援助の引き換えとして、従来の経済運営(経済・金融・財政構造)を根本的に転換→市場メカニズム導入

24

○ どうか

1: 安定化政策 (対症療法)

- ・増税や財政支出削減、公定歩合の引き上げ
→ **財政・金融引き締め**
- ・為替レートの切り下げ (輸出生産促進) → **国際収支の改善**

25

2: 構造調整政策 (根治療法?)

- ・ **目的**
経済への構造的制約条件を除去 → 債務返済
- ・ **民営化・規制緩和**
公共部門の縮小 (民営化)、公務員給与と各種補助金の削減、通貨切り下げ、輸入自由化
- ・ **農業基盤整備**
農業生産価格引き上げ、農道整備、農産物品種改良、肥料・農業供給の効率化
- ・ **インフラ・社会資本整備**
電力供給の安定化、電話などのコミュニケーション手段整備、教育・社会保険制度の充実

○ 影響と結果

- ・短期的には社会的弱者への影響が大きい → **構造調整政策への反対暴動 (ザンビア)**
- ・成功 (ガーナ) と失敗 (ザンビア)、90年代に経済成長率は若干改善
- ・今日では「**失敗**」と評価

27

○ 問題点

- ・ **供給過剰の可能性**
国際収支改善のために各国の農産物輸出が促進されると、国際価格は下落
- ・ **資本の成熟度**
「開発主義」よりも「市場メカニズム」の活用は、民間資本が未成熟なアフリカに適切か
- ・ **投資の魅力**
グローバリゼーションへのリンクには、アフリカが外国資本にとって投資先としての魅力 (**政治の安定**や**人材**) を持たねばならない
→ **社会開発とグッド・ガバナンス** (90年代以降)

28